

梯川河川愛護モニターさんからのおたより

河川愛護モニターの山本さんと小橋さんに梯川について思ったこと、感じたことを報告していただきました。ここで、ほんの一部ですがご紹介します。



■10月の報告

改修工事(下牧築堤工事)の看板について、工事期限の大きい看板の案内があり、わかりやすかったです。その下に看板2枚が倒れていた(これから建てるのかと思った)のは危険ではないでしょうか。



平成20年度 梯川河川愛護モニター 山本 恭子さん

【コメント】

工事看板については、近隣の住民の方や散歩などで利用する方たちが工事の期間や施工者などがわかりやすいように案内しています。倒れていた看板については、通行する方に対して危険にならないよう対処いたします。

(小松出張所)



■10月の報告

平成15、16年頃の河川維持状態と近年の維持状態を比較すると、川のそばに草木が繁茂し荒廃していると思います。梯川協議会のボランティアによる清掃、人手・草刈機・収集車を使っての維持に努めておられますが、今後も維持修繕費、環境整備事業費が削減されることのないようにお願いします。河川改修は下流から、維持修繕は上流からを提案します。



平成20年度 梯川河川愛護モニター 小橋 義昭さん

お二人とも、貴重なご意見をありがとうございました。今後の河川事業の参考にさせていただきます。

梯川手づくり学習館情報

野鳥観察会 ~梯川にはどんな鳥がいるのかな?~

昨年に引き続き、梯川手づくり学習館で野鳥観察会を行います。平成21年2月に開催する予定です。詳細な日程は後日、手づくり学習館のホームページで紹介いたしますので、ご確認ください。

梯川にもたくさんの鳥がくるんだね。



マガモちゃん



アオサギくん



平成20年2月の野鳥観察会の様子

梯川手づくり学習館のホームページ

<http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/river/gakushu/index.html>

お問い合わせ先

国土交通省金沢河川国道事務所調査第一課 TEL076-264-8800

小松出張所 TEL0761-23-4000

ホームページ <http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/>

広報「かけはしがわ」は、ホームページでもご覧になれます。



国土交通省 北陸地方整備局

金沢河川国道事務所

本誌は再生紙を使用しています 環境にやさしい植物性大豆油墨を使用しています



かけはしがわ



発行 国土交通省金沢河川国道事務所

魅力的な梯川を後世に…。 丸の内低水護岸工事の粗朶沈床工法

多自然川づくりのとりくみ

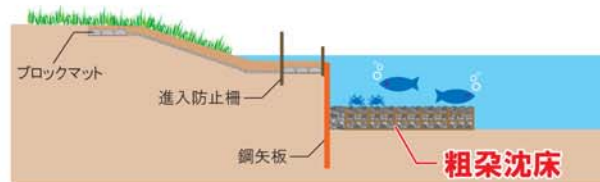
騒々しい市街地の脇を、悠々と流れる梯川。その佇まいや水面に浮かぶ水鳥、賑やかな囁きは、人々の心を和ませてくれる後世に残したい風景です。

このような梯川の良さを残しつつ、そこに住む人々の安全や安心を高めることの両立を目指して、河川改修に取り組んでいます。

多自然護岸「粗朶沈床」

小松市丸の内町、下牧町地先で進められている丸の内低水護岸工事では、「粗朶沈床」と呼ばれる多自然工法をとりいれています。川岸は水面と土が接し、ヨシ等が繁茂するよう配慮しています。粗朶沈床は、水の流れて川底が掘れるのを防ぐために設置する根固め工と呼ばれるものの一つです。従来のコンクリートによる根固め工に比べ、魚類やえび、かになどの生き物が棲みやすいため、環境に優しい工法です。

梯川では、以前から粗朶沈床を利用した整備を行っており、粗朶によって支えられた水底は、多種多様な生物が息できる空間にもなっています。



※粗朶とは広葉樹のナラ、クリ、カシなど硬くて強い材質の枝を束ねたものです。7~10年ほどを目安に成長したものを使います。

粗朶沈床は 手づくりなんだよ



粗朶沈床を組み立てています



粗朶沈床を設置した状況です

現場の声

丸の内低水護岸工事



白山建設(株) 小高 輝之さん

本工事は、鋼矢板・ブロックマット・粗朶沈床等を用いた多自然低水護岸工事です。私も初めて経験する粗朶沈床の施工であり、事前に色々調べたり、職人さんに質問や相談をしながら工事を進めています。人力での組立作業が多く、伝統的なものを感じました。残念ながら粗朶沈床工は水の中で見えなくなってしまうのですが、自然に優しく水生生物等にも優しいものなので、地元の方々にもこの機会に知って頂けたらと思います。人に優しく、自然に優しく心掛け、自然豊かな水辺で川とふれあえる親水護岸となるように安全に施工していきたいと思っておりますので引き続きご理解、ご協力をお願い致します。

梯川の工事

本年度行われている工事は完成に向け着々と進んでいます。写真の3件を含め、現在13工事を進めています。



くらしを守る!!

油類の取り扱いにご注意ください

冬期間は暖房器具の灯油など、家庭で油類を使用する機会が増えてきますが、それに伴い、油類が河川に流出する事故の危険も増えてきます。油類流出事故の多くは人の不注意によるものが多く、みなさんも油類の取り扱いにはより一層ご注意ください。

万が一、油類流出事故が発生してしまった時に備え、手取川・梯川水質汚濁 対策連絡協議会（石川県、流域市町村、各消防本部、金沢河川国道事務所）では、11月13日（木）に、水質事故（油類の流出事故）対策訓練を訓練を行いました。事故を発見したら最寄りの消防署、警察署、市役所、県土木事務所、国土交通省小松出張所へ連絡をお願いします。



事故の発生原因

(平成20年1月~平成20年9月)

人の不注意による事故が30%以上



※グラフデータは北陸地方整備局管内の一級河川で発生した水質事故

オイルフェンスってなに?!

油類などが、河川、湖沼、海などの水面上に流れ出た場合に、オイルフェンスを設置して油類が広がるのを防止します。

吸着マットってなに?!

河川などに流れ出た油類を、水面上に設置したマットで吸収し、回収します。



出張!! 出前講座

小松市立第一小学校の総合学習

10月28日（火）、梯川手づくり学習館（前川排水機場内）に第一小学校の5年生3クラス99名が、総合学習にやってきました。梯川の洪水や生物、歴史についてなど各クラス6~8つのテーマ毎に班分けし、各テーマについて金沢河川国道事務所職員にインタビューや、施設の掲示物などを見て勉強しました。各クラス1時間程度の短い時間でしたが、事前にまとめた質問内容についてしっかり勉強することができ、また、新たな発見もあったようで、それぞれ満足した表情で帰って行きました。梯川手づくり学習館は、平日9時~17時まで開館しております。梯川について興味がある方は是非一度お越しになってください。事前に連絡をいただければ職員がご案内いたします。



出前講座に関するお問い合わせはこちら

金沢河川国道事務所調査第一課：076-264-8800
ふれあいプログラム「まなVIVA」：
<http://www.hrr.mlit.go.jp/tiiki/manaviva/index.html>

ふれあいプログラム
「まなVIVA」



川にふれる!!

梯川にサケがいた!? - サケの遡上観察会 -

11月9日（日）に「サケの遡上観察会」（梯川手づくり学習館主催）が市内の小学生を対象に開催されました。当日は、本村公志氏を講師に招き、手づくり学習館（前川排水機場内）において梯川のうづりかわりやサケについて学んだ後、実際にサケを見られる現地へ向かいました。今年は全国的にサケの遡上数が少ないということで、観察会でも確認できるか不安でしたが、なんと2匹のサケが産卵行動（産卵箇所の穴掘り）をしているところを確認することが出来ました。（サケの映像は手づくり学習館のホームページで見ることができます。）参加した小学生や保護者の方たちはサケを見られた事にとっても感動していました。観察会終了後のアンケートでは「川をきれいにしよう」と

思った「川を大切にしていきたい」などという意見が見られ、いっそう河川を愛する気持ちを高めることができたと思います。サケの捕獲は法律で禁止されています。もし見つけても観察するだけにしましょう。

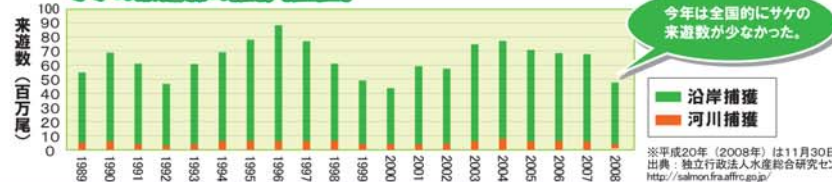


本村公志氏のサケ講座



遡上したサケ

サケの来遊数の推移(全国)



※平成20年（2008年）は11月30日現在
出典：独立行政法人水産総合研究センターさけますセンター
<http://salmon.fra.affrc.go.jp/>

産卵の様子が見れます→ http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/mb5_kouhou/sogo/gakusyukan/sake081109/index.html